

ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書

概 要

第1回 姫路市立高等学校在り方審議会 説明資料

兵庫県教育委員会事務局 高校教育課
参事(高校教育改革担当) 兼本 浩孝

これまでの高校教育改革の流れ

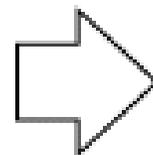
年 度	全県の動き	備 考
平成12年度	県立高等学校教育改革第一次実施計画	◆ 均質な学び→魅力・特色ある学び <u>学びたいことが学べる学校づくり</u>
	◇ 高校進学率97% ◇ 中学生人口半減(H1:8.7万→H20:4.9万)	◆ 望ましい規模と配置の実現 発展的統合(5組10校)
平成21年度	県立高等学校教育改革第二次実施計画	◆ 高校の魅力・特色づくりを継続 <u>学びたいことが学べる学校づくり</u>
	◇ 市町合併等社会状況の変化(91→41市町) ◇ 生徒の興味・関心、進路希望の多様化	◆ 生徒の進路希望に応じた入試制度 複数志願選抜制度・新学区の検討
平成25年度	長期構想検討委員会報告	◆ 高校の魅力・特色づくりを継続 <u>学びたいことが学べる学校づくり</u>
	◇ 当面の間、中学生の人口動向は安定 ◇ 特色学科・コース・特色類型の設置が充実	◆ 第二次実施計画の継続実施 次期実施計画は学区再編安定後
平成27年度	通学区域再編(16学区→5学区)	◎「高校の選択の幅は広がった」 ◎「中学生等の制度理解は進んだ」 ◎「魅力・特色への関心高まった」 ＜高等学校通学区域検証委員会報告＞
	複数志願選抜の全県導入	

これまでの高校教育改革の流れ

通学区域の改編



～H26（16学区）



H27～（5学区）

今後の県立高等学校教育改革の方向性

県立高等学校教育改革 第二次実施計画の評価

〔全体の評価〕

◎ 学びたいことが学べる魅力・特色ある学校づくりは推進された

△ 新たな価値観を創造できる力を育成する教育のあり方の確立が重要

△ 多様な価値観を持つ生徒を受け入れられる教育制度の整備が必要

今後の県立高等学校教育改革の方向性

県立高等学校教育改革第二次実施計画の評価

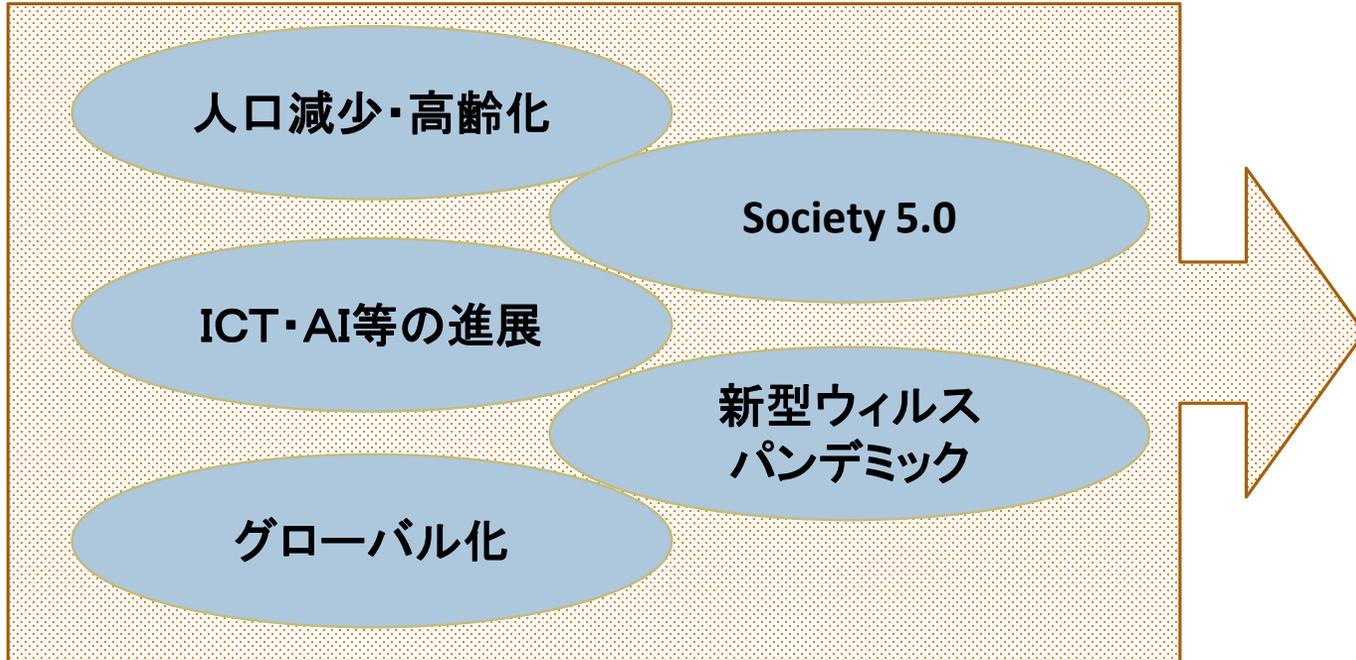
〔新入生アンケート結果〕（R3.1月実施 新入生2,400名）

◇ 高校の魅力・特色を高校選択の理由にした生徒	82.5%
◇ 高校生活が充実している生徒	90.6%
◇ 通っている高校の魅力・特色	
①学科やコース・類型の内容	56.1%
②多様な選択科目	25.6%
◇ これからの社会で必要となる力	
①思いやりを持ち人間性を高めようとする力	57.4%
◇ 高校に期待すること	
①学力や技術が身についたと実感できる授業	44.8%

今後の県立高等学校教育改革の方向性

○高等学校教育を取り巻く環境と課題

【社会情勢】



【求められる人物像】

変化が激しく
予測が困難な時代

- ・変化に柔軟に対応できる
- ・新しい社会を創造し、先導できる
- ・既存領域に囚われることなく、多分野にわたり知識や技能を活用できる

今後の県立高等学校教育改革の方向性

○高等学校で育成する力

- ◇思いやりや寛容の心を持ち、**人格の形成を主体的に求め続ける力**
- ◇正確に情報を受け取ったうえで**自分の考えを論理的に発信できる力**
- ◇他者と協働しながら身の周りの**社会的な課題に対応できる力**
- ◇主権者として社会を構成するために必要な**社会人基礎力**
- ◇多様な価値観を受け入れたうえで**物事を創造できる力**
- ◇自国や地域文化への正しい知識に基づき、**国際社会の中で対応できる力**
- ◇困難な状況に接しても、**しなやかに対応できる力(レジリエンス)**

今後の県立高等学校教育改革の方向性

○県立高等学校教育改革の方向性

- ◆ 予測困難な未来に対応するため、特定の分野に偏らない様々な知識や技能を統合し、新たな社会を創造する力を育むことのできる教育課程の編成
- ◆ 生徒の多様な個性や興味・関心に応じた、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを、引き続き推進
- ◆ 異なる考え方や、異なる言語・文化・習慣等を有する集団の中で主体的に行動し、新たな生き方や価値観を生み出せる教育環境の整備
- ◆ すべての教育活動において、ICTを積極的に活用
- ◆ 高等学校の規模と配置については、都市部と地方部とでは異なる実情があることを認識したうえで、高等学校の魅力と活力を維持できるよう検討

今後の県立高等学校教育改革の方向性

【教育システムの充実・改革】

全日制普通科学年制、特色ある専門学科

- ◇ 文理融合による新技術を活用した探究活動を軸とした学科
- ◇ 地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした学科
- ◇ コースは、特色類型または専門学科への改編を検討

職業学科

- ◇ 従来の技術に加え、新技術に対応できる学びを取り入れる
(工場のロボット化・スマート農業化)

今後の県立高等学校教育改革の方向性

【教育システムの充実・改革】

総合学科・全日制普通科単位制

- ◇ 系列の見直しや、各校の特色を明確化するためのさらなる工夫
- ◇ 小規模となった総合学科は、普通科や職業学科への改編を検討
- ◇ 単位制では、課題研究を軸とした教科横断的な学びを一層推進

中高一貫教育校

- ◇ 中等教育学校では、多様な価値観を受け容れ、活用できる人材育成
- ◇ 連携型中高一貫教育校では、連携中学校を含む6年間の計画的な指導

今後の県立高等学校教育改革の方向性

【教育システムの充実・改革】

定時制・通信制

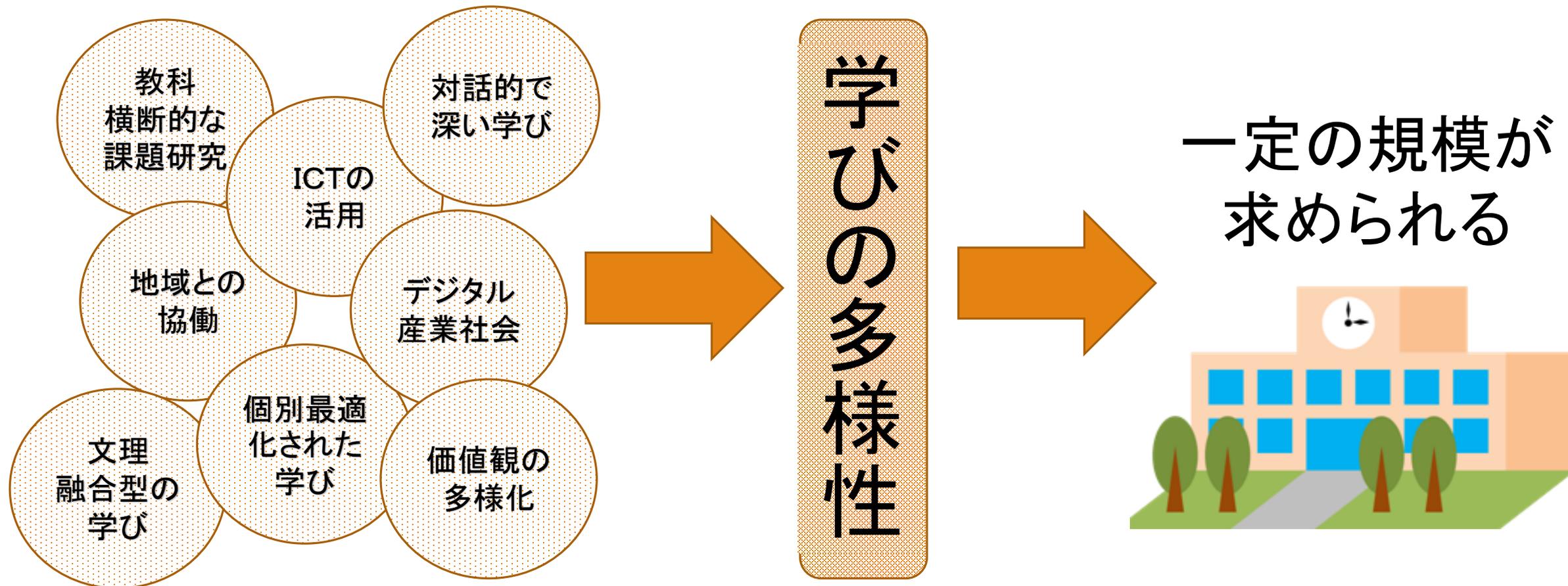
- ◇ 一人一人の実態や学習ニーズに応じた教育活動の展開を充実
- ◇ 多部制では、生徒のニーズにさらに応えるため、部間の募集定員の見直し
- ◇ 通信制では、ICTによる遠隔授業の展開や学びのコンテンツ整備

〔通学区域・入試制度等〕

- ◆ 基本的には現行制度を維持
- ◇ 制度の全体的なあり方を、中長期的に検証

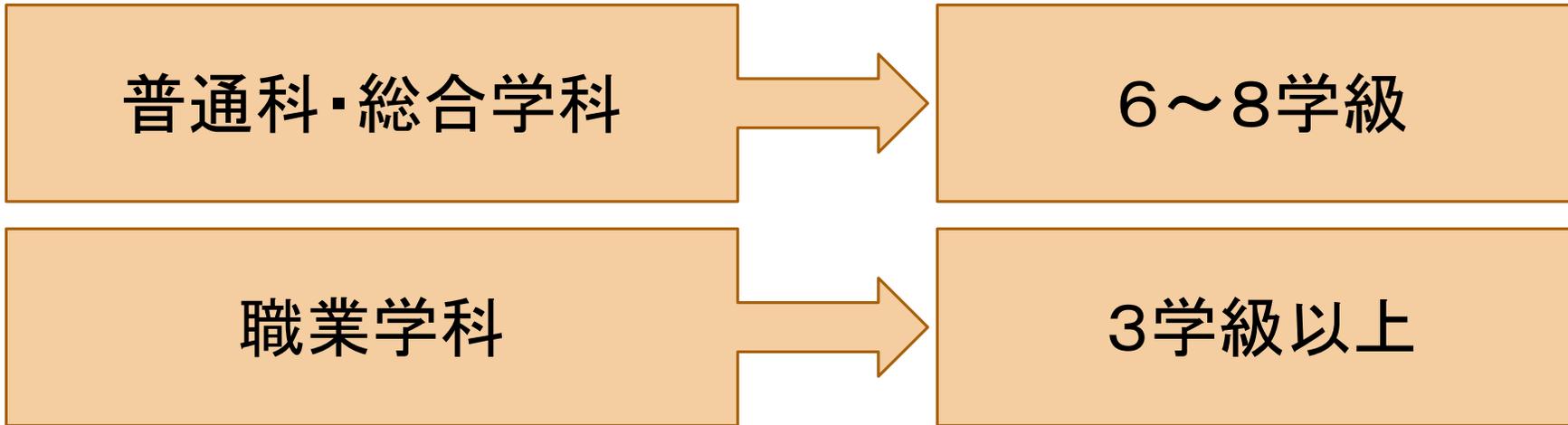
今後の県立高等学校教育改革の方向性

【県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置】



今後の県立高等学校教育改革の方向性

【県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置】



ただし、地域によって実情が異なるため・・・

- ◆ **都市部**では、発展的統合により規模を維持
- ◆ **地方部**では、地域の支援を得ながら存続可能性の有無を含めて検討

今後の県立高等学校教育改革の方向性

10年後20年後の高校生が、
いきいきと高校生活を送る姿を念頭に置きながら、
必要な高等学校教育改革に速やかに着手されることを期待する。

(「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書 はじめに」)

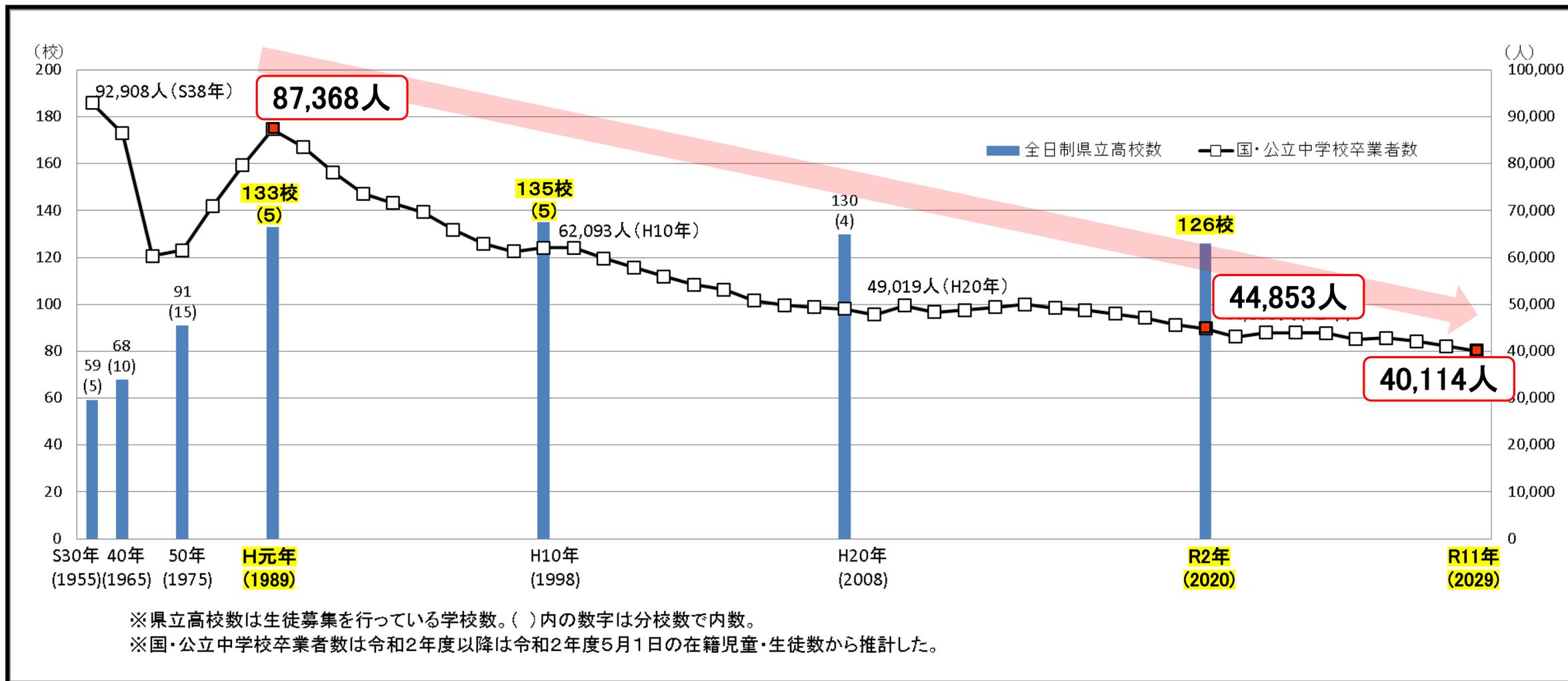
◇ 各地域の学校配置・定員の状況、生徒数推移等

(1) 全県の状況

(2) 第4学区の状況

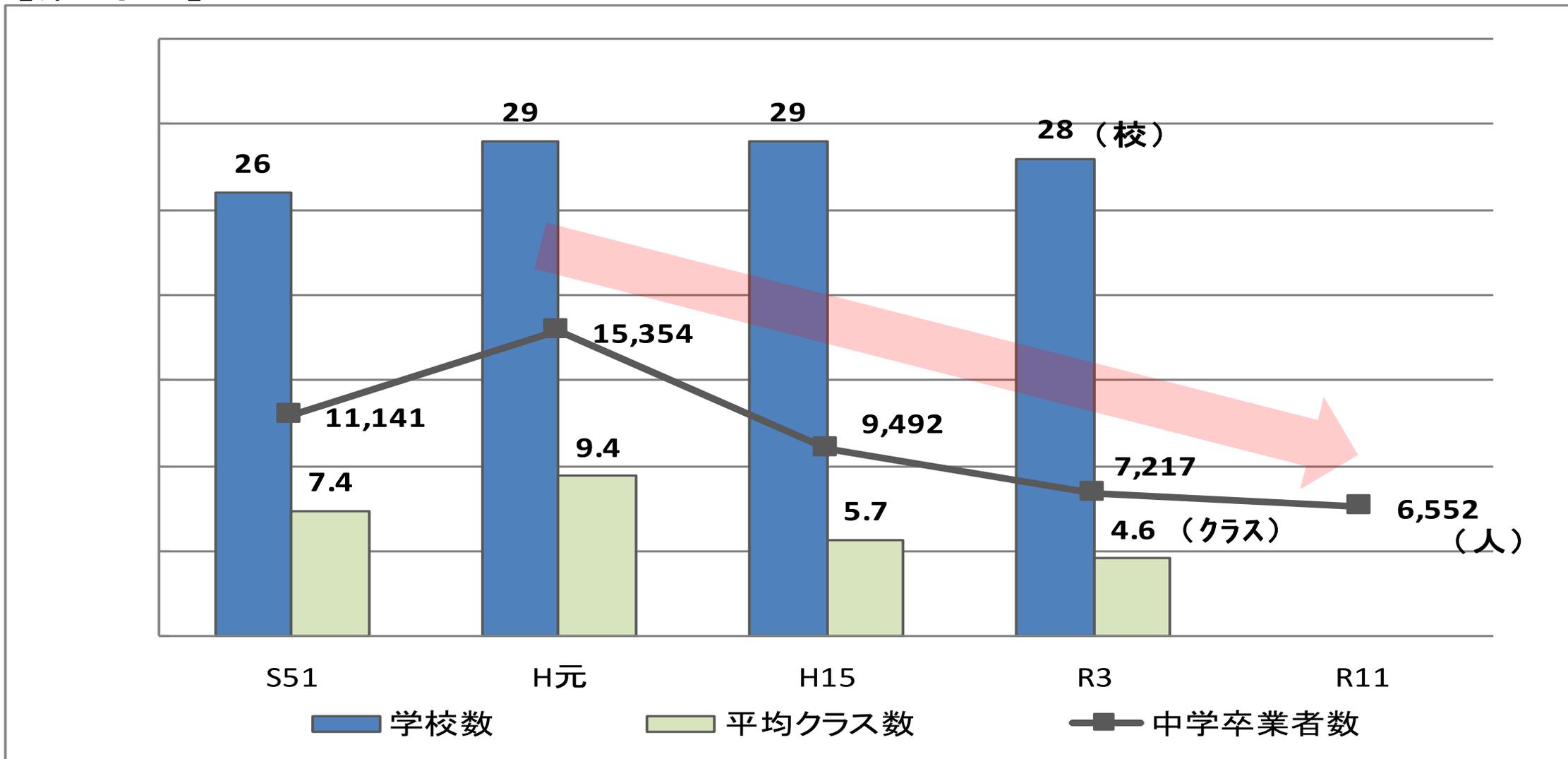
(3) 播磨西 東部地域の状況

(1) 全県の場合(国・公立中学校卒業生数及び全日制県立高等学校数の推移)



(2) 第4学区の状況(国公立中学校卒業生数・学校数・1校平均クラス数の推移)

【第4学区】



(3) 播磨西 東部地域の状況(中学校卒業生数及び募集生徒数、クラス数の増減)

地域	市町名	H元・3 中卒者数 (人)	R3・3 中卒者数 (人)	R11・3 中卒者数 (人)	高校名	H元年度 募集生徒数 (人)	H元年度 クラス数 (クラス)	R3年度 募集生徒数 (人)	R3年度 クラス数 (クラス)	増減 クラス数 (クラス)	R11年度公立高校 推定募集数 (人)	推定増減 クラス数 (クラス)
播磨西 東部	姫路市	9,014	4,669	4,276	姫路東高校	517	11	280	7	△ 4	2,908	△ 7.3
					姫路西高校	470	10	280	7	△ 3		
					姫路南高校	517	11	200	5	△ 6		
					網干高校	470	10	160	4	△ 6		
					姫路別所高校	470	10	120	3	△ 7		
					姫路飾西高校	517	11	200	5	△ 6		
					香寺高校	416	9	200	5	△ 4		
					夢前高校	235	5	80	2	△ 3		
					家島高校	94	2	40	1	△ 1		
					姫路工業高校	320	8	280	7	△ 1		
					飾磨工業高校	320	8	160	4	△ 4		
					姫路商業高校	376	8	240	6	△ 2		
					(市) 姫路高校	423	9	240	6	△ 3		
					(市) 琴丘高校	376	8	240	6	△ 2		
	(市) 飾磨高校	376	8	240	6	△ 2						
	神河町	828	88	58	神崎高校	188	4	80	2	△ 2		
	市川町		106	75	-	-	-	-	-	-		
福崎町	174		169	福崎高校	423	9	160	4	△ 5			
計	9,842	5,037	4,578	17校(R3)	6,508	141	3,200	80	△ 61	※		
増減		△ 4,805	△ 459									

※R11年度公立高校推定募集数・・・(令和3年度募集生徒数÷令和2年度中卒者数)×令和10年度中卒者数により算出した数であり、あくまで試算値です。